資料②

平成２８年度　第１回　高山市総合教育会議　　議事録

【日　時】　平成２８年5月１６日（月）　１０時００分～１２時００分

【場　所】　高山市役所　地下　大会議室

【出席者】　（構成員）　高山市長　　國島　芳明
教育長　　中村　健史
教育長職務代理者　　針山　順一朗
教育委員　　打江　記代
教育委員　　岡田　悦子
教育委員　　野崎　加世子
教育委員　　長瀬　信

（構成員以外の出席者）
企画管理部長、教育委員会事務局長、市民活動部長、市民保健部長、
企画課長、教育総務課長、学校教育課長、文化財課長、学校給食センター所長、
市民活動推進課長、生涯学習課長、スポーツ推進課長、商工課長、
企画係長、教育総務係長、家庭児童相談係長、商工振興係長、企画課職員

（傍聴者）　１名

【会議内容（次第）】
・市長あいさつ
・教育長あいさつ
・議題
（１）前回会議における意見の整理について
・資料①　第１回高山市総合教育会議における意見の論点整理について
・資料②　第１回高山市総合教育会議議事録
・資料③　高校と地域等との連携について
・資料④　若者支援関連事業について
（２）意見交換
・その他　　次回の会議について

【議題要旨】

（１）　前回会議における意見の整理について

市　　長　　前回会議における意見の整理について、まずは資料①、②、④に関して、事務局より説明をお願いします。

企画課長　　（資料①、資料②、資料④について説明）

市　　長　　関連がありますので、資料③について、長瀬委員より説明をお願いします。

長瀬委員　　（資料③について説明）
高校生が地域のことを真剣に考えて様々な取り組みをしているので、市民の皆さんにも高校生の活動について知っていただきたい。市としても、ソフト面・ハード面で支援できることについては支援していただきたい。また、高校生と連携して新たに取り組めることがあればぜひお願いしたい。高山市教育委員会では郷土教育を大きな柱にしており、高校生自らが参画できる活動を推進していくことが地域の人材養成の点でも有益だと考える。

市　　長　　資料①から④までについて、何かご意見があればお聞かせいただきたい。
今回、長瀬委員さんが高校生の取り組みについて調べて整理していただいて、高校生と地域の関わりがたくさんあることを改めて確認できた。
資料④の若者支援事業について、市内の親御さんにお知らせするのも大事だが、市外の方へのＰＲはどのように行っているか。

商工課長　　高山市へＵＩＪターンする方を増やすため、チラシを充実させて大学等に配布したい。現在作成中の職場ガイドと合わせてＰＲしていく予定。

打江委員　　景気が良いと高山に戻ってきてくれる若者が中々いない現状がある。先日開催された就職ガイダンスにも人があまり集まってくれなかったという話を聞いたりした。地元に戻ってきてくれることだけが郷土教育ではないが、やはり情報発信には力を入れていただきたいと思う。

商工課長　　現在、高校生を対象とした企業見学会を開催しているが、高校生の心に響くような内容に工夫していきたい。また、各学校の協力をいただいて高山市の企業情報や支援制度の情報を親御さんに届ける取り組みも数年前から実施しているところ。

野崎委員　　資料④にあるような若者支援は大変ありがたいことだと思う。サテライトキャンパスについては、実際、どれくらいの学校に調査をされて、どれくらいの需要があるのか、大学に対してどのように広報して数などをつかんでいくのか。

企画課長　　大学が望んでいることについてニーズ調査やマッチング作業が大変であり、今年１年間は行政と大学がお互いに情報を発信・共有し、どのようにすればサテライトキャンパスが活かされるのか、どのような分野に需用があるのか、マッチングをしていきたい。実際に試験的に進めながら高山型のサテライトキャンパスのモデルを作っていきたい。

（２）　意見交換

市　　長　　それでは、意見交換に入らせていただきます。資料①に前回会議の論点がまとめられているので、これを深めていきたいと思います。
最初に、**「地域との関わり、協働のまちづくりに関すること」**について、不登校に関するご意見などもあると思いますが、いかがですか。

針山委員　　この教育会議において、教育現場が抱えているいろいろな課題をお互いに分かりあって、学校にとって、子どもたちにとって大切なことを見出していきたい。教育の分野における課題を本当に解決しようとするとき、教育委員会だけでなく各部署の横のつながりをもっと密にしていくことが必要。私が今、教育現場の大きな課題と考えているのは、多忙化する教育環境・学校現場の改革、文化財課と商工観光部局が連携し文化財を利用しながら観光にも寄与すること、そして、不登校の問題である。
現在、不登校気味の子どもが１００人を超えている。子どものうちに不登校になると、高校へ行っても半分くらいが退学してしまったり、社会へ出てもニートになってしまうことが多い。その子どもたちがニートにならず社会で働いてくれれば高山市の活性化にもなる。少ない人数の子どもたちかもしれないし、予算はかかるかもしれないが、不登校の子どもたちに手を差し伸べていただきたい。国でも超党派の議員が法案を提出して何らかの施策をやろうとしている。

市　　長　　地域の中で子どもたちを育てていくという視点でご意見があればお願いします。

長瀬委員　　不登校については、家庭環境に起因する場合と学校生活に起因する場合の２つがあり、家庭環境などに問題がある場合、学校や教員の対応だけでは難しい。子どもが生まれてからの支援体制、就学前からの支援が非常に大切だと考える。

岡田委員　　不登校の子どもも苦しんでいるが、その親も苦しんでいると思う。子どもが生まれてからの支援というのは親への支援にもなる。０歳児から社会人になるまでを通して、親が安心して子育てできるような支援があるとありがたい。

教 育 長　　朝高子どもしとねる会に対して、今年度は朝日と高根のまちづくり協議会から予算を出してもらえるようになったと聞いた。まちづくり協議会の意識がそのように変わってきたことを大変嬉しく感じた。そういう思いが広がってほしい。

市民活動推進課長
　　子ども教育参画会議とまちづくり協議会の連携について、支所地域ではそれぞれの活動範囲が同じであるため、比較的連携が上手くいっているようであった。高山地域では活動範囲にズレがあるため連携方法に課題があったが、今年度の事業計画をみると、各まちづくり協議会とも何らかの形で子ども教育参画会議にお金を出し合って支えて行こうというようになったので、高山地域においても前進している。

市　　長　　そういう事例をもっと広く市民の皆さんにも紹介していくべきである。
教職員が忙し過ぎるという意見もあったが、学校教育課は認識しているか。

学校教育課長　教職員の多忙化について、今年度は、先生の事務的な仕事を出来るだけ減らし、子どもと向き合う時間の確保に努めたいと考えている。例えば、掲示物を減らす、通知表のあり方を見直すなど対応策を考えている。中学校の部活動については、複数顧問の場合はできるだけ１人でコーチや保護者と協力して土日の支援にあたるなど、改革をしていただいているところ。

市　　長　　それでは、次に、**「福祉・保健との関わり、特別な配慮の必要な子への支援に関すること」**についてご意見をお願いします。

野崎委員　アスペルガーの子は障がいを持っていても特定の部分がすごく秀でていることが多い。就学前の早い段階で気づいて、その子に合った対応をすることで、小学校にも普通に行って就労できることも分かってきた。地域や学校現場で継続した支援ができればと思う。
給食のアレルギーについても、いろいろなアレルギーが出てきていて、学校給食の対応が本当に大変になっている。全て学校で対応すべきかどうか、お弁当を持参させている地域もあると聞くので、その子にとって一番安全で栄養が取れることが大切であると思う。
配慮の必要な子は様々で大変だが、その子に合った対応を考えていきたい。

打江委員　福祉・教育・行政・企業が縦割りでなく、横のつながりを持って、その子の一生の見通しを持って、自立した生活ができる人を育ててほしい。そのためには小さい頃からの教育や周りの人たちの支援が必要。今年度から障がい者差別解消法も施行したので、周りの人たちの人権教育や認め合う心の醸成が大事。

教 育 長　国では特別支援教育を一貫してつないでいくために個別のカルテの作成を推進し始めたが、高山市ではすでにサポートブックを用いて実施しようとしている。いかに実効性のあるものにしていくかが重要で啓発していく必要がある。生まれたときから１８歳もしくはそれ以降も、それを以って必要な支援を受けられるというものにしていかなければならない。
また、先日、子ども会育成連絡協議会の方から、今は単位子ども会も小さくなり十分なことができなくなってきたため、これからは単位子ども会同士の横のつながり・連携をしていきたいという意見を聞いた。まちづくり協議会においても今後はそういう発想でまちづくりが必要と思われるので、行政としても後押ししてほしい。
学校は自己完結型で狭くなりがちなところがあるので、つながりや開かれていることを大切にしていきたい。

市　　長　今、２つの論点が出てきたと思う。１つは、一人ひとりの子どもたちをきちんと見ていく、その子の状況に合わせて対応していく姿勢が大切であるということ。もう１つは、一人の子どもに対して、様々な機関が同じ思いを持ち続けることができるような連携が大切であるということ。
今日は子育て支援課の職員も同席しているが、子育て支援課は保育園の担当というイメージがあるが、今の子育て支援課は生まれる前から１８歳までを一貫して対応する部署であることをアピールしていく必要があると考える。
次に、**「キャリア教育・高校との連携に関すること」**についてお願いします。

長瀬委員　子どもたちを参画させる視点が大切。先般、議会と高校生との意見交換会が開催されたが、そういう取り組みが大事。自分たちが地域のことを考えて市長や市に発信することで、何か形になって返ってくるという学習をさせることで、地域に対する考え方が深まってくると思う。

針山委員　キャリア教育について、企業や団体の方たちに中学校へ来ていただき、自分の生き様を教えていただいている。最近は、家庭でそういう話を聞く機会が少なくなっており貴重な機会だと思う。市の職員の方にも加わっていただければありがたい。

野崎委員　私も先日、中学校へ行かせていただき、東日本大震災のときの避難所のお話や命を感じようというお話をさせていただいた。カリキュラムがいっぱいで大変かもしれないが、外の人の話を聞く機会は大切にしてほしい。

岡田委員　いろいろな経験者の方に学校へ来ていただきお話をしていただくことは、子どもたちにとって将来のことを考える貴重な機会だと思う。自分の親の仕事や近所の人の仕事しか中々知る機会はないので、そういうキャリア教育の時間を確保することは大変かもしれないが、長い目でみて削らないでほしい。

市　長　地方創生の高校生アンケートで驚いたことは、親が子どもに自分の仕事を勧めないということ。若者に戻ってきてもらおうと取り組んでいるが、親御さんがそういう実態であることは驚きだった。職業を考えさせる機会、子どもたちを社会と触れさせる機会は大切だと思う。
それでは、**「食育・学校給食に関すること」**についてですが、古川・国府給食センターで給食のアレルギー対応がものすごく大変だと聞いた。高山の給食センターも同じ状況があるのか。

給食センター所長
食物アレルギーについては２３０名ほどの対応をしている。出汁から対応が必要な子どもさんの中には、お弁当を持ってきていただいている場合もある。

市　長　食育ということについて何かお考えはありますか。

野崎委員　食事の取り方が認知症予防に大きく関わっていることが分かってきた。認知症になる２０～３０年前からの食生活が関わってくるため、小学校・中学校の頃から食育をすることが必要だと考える。一般市民にも食べることの大切さを知ってもらう取り組みが大切。

針山委員　食材の値上がりなどで、今後、給食費を値上げしなければならないような状況になることもあるかもしれないが、できるだけ親御さんの負担にならないように、市で対応していただけることを願っている。

岡田委員　食事のアレルギーについては、学校の中だけのことではなく、学校を離れてからも関わってくることなので、子ども同士、親同士、お互いを理解し合うこと、勉強し合うことが大切だと感じる。

市　長　次に、**「文化・文化財に関すること」**について、ご意見ありますか。

針山委員　まちの博物館や旧森邸など、民間のアイデアも取り入れて、市の財産をいかに活用して、利益を生み出すのかという視点も持っていただきたいと考える。

市　長　今年の４月に飛騨の匠が日本遺産になったが、その１つの大きな柱が、文化財を活用して社会の活性化につなげたいということである。文化財を守るということだけでなく、そこに付加価値を生み出すことが求められている。

学校教育の中で、文化についてはどのように捉えられているか。

学校教育課長　小学校３・４年生と５・６年生には郷土教育の副読本に文化資料も盛り込んで作成し活用している。中学校では社会科の歴史・地理に関連付けて、学校区の文化・文化財について指導計画に盛り込んで学習している。

教 育 長　学習指導要領に文化が掲げられているかと言えば無いに等しい。しかし、高山市では郷土教育の中で、高山市のまちがどうあってきて、何を目指していくのかを学ばせている。学校の先生が全てではなく、家庭の中でも地域の魅力や文化について子どもたちに語ってほしい。各地域がもっている宝について、子どもたちが語れるようになってほしい。

市　　長　総合教育というか、一般日常生活における、文化振興のあり方、文化財保護活用のあり方は大きな課題である。
まちの博物館は、より多くの人に見ていただきたい思いで無料にしているが、現在、整備している旧森邸については稼ぐ施設にしたいと計画している。
それでは、**「スポーツに関すること」**について、スポーツも学校教育の中で大きい分野だと考えるし、一般社会の中でのスポーツもあると思うがいかがですか。

長瀬委員　中山の野球場について、先日、飛騨地区の高校生の野球大会があって応援に行った際、顧問の先生などにいろいろ意見を伺ったところ、基本的には高山で高校野球の予選ができるようになることを望んでみえると思う。やはり、地域の皆さんやたくさんの小中学生が応援している姿というのは、スポーツ振興のうえで大切だと感じた。長期的な視野に立って整備がされればと思う。

針山委員　スポーツ施設はやはり必要だと考える。中山テニスコートの芝も国の補助を活用して改修していただく予定になっているが、国の補助にはいろいろ規制があるので、使い勝手の良い施設になるよう気を付けて対応をお願いしたい。

市　　長　スポーツには２つの路線があって、記録などを極めていくスポーツと、日常的に体力維持やリフレッシュのためにできる気楽なスポーツの２つがあると思うが、注目されるのは記録や全国大会出場という傾向があると思う。２つのバランスはこれで良いのかと疑問に思う。

教 育 長　バランスに少し片寄りがあるかもしれない。スポーツ人口を増やすこと、日常的に運動することの楽しさを伝えることも必要。認知症予防には食事だけでなく運動することも大切だと思う。

市　　長　トップアスリートが出ると、そのスポーツの底辺が広がるということもある。例えば、斐太高校が準優勝したことで野球が急にクローズアップされた。トップを育てることも大事だし、日常的にスポーツに親しむ環境づくりも大切だと考える。

針山委員　総合型スポーツクラブについて市はどのような見解を持ってみえるか。

スポーツ推進課長
今年度、スポーツ推進員の皆さんと総合型スポーツクラブについて研究していきたいと考えている。幅広い年齢層の方にどのように参加していただけるか、まちづくり協議会の皆さんとも一緒に考えていきたい。

針山委員　国の言うような大きいものを目指して作っていくということか。

スポーツ推進課長
身近なところから、多世代の人が参加できるものを考えている。

市　長　総括的に何かご意見があればお聞きしたいと思います。
マイナス１歳から大人になるまでの支援について、子育て支援の関係では一本化は図られつつあるのか。

家庭児童相談係長
生まれる前から就職するまで、教育の最終の目標が自立した人間を育てるということであれば、就労・納税というところも一つの目指すべき姿として考えていきたい。
その意味で、福祉・保健・教育の連携については実効性のある連携をしていくために、システムを整えていく必要性を感じている。

市　長　論点を整理すると、総合教育会議の目標というのは、行政職である市長と教育の専門家である教育委員の皆さんが、共通の目標を持って、どういう教育をすすめていくと良いのか確認しあい、それを大綱としてまとめようとするものである。
もう少し議論してから大綱に向かうべきか、この辺りで大綱の骨子に向かうべきか、いかがでしょうか。

教育長　そろそろ大綱の骨子をまとめて議論を深めていくのが良いという思いもあるが、前回と今回の２回の議論だけでは、言及していないこともあるのではないかという思いもある。
定例教育委員会において話題にしたり協議している内容には、もっと生の具体的な話が出てくる。大綱の柱立ての中にそういう部分も踏まえていただけると嬉しい。

市　長　教育環境整備ということについては、まだ議論をしていないように感じるので、次回は、学校教育施設や社会教育施設など環境整備について議論をしてみたいと思うが、いかがでしょうか。

教育長　そうしていただけるとありがたい。

市　長　これまでに、まず、一人ひとりの子どもたちにきちんと目を向けていくこと、それを継続的かつ横断的に見ていくということが、１つクローズアップされたと考える。
次回は教育環境整備について論点を整理し、現状の調査結果を把握してまとめたものを事前に配布していただいて、それを元に議論していけたらと思う。

針山委員　教育の視点から平和都市宣言について少し意見を申し上げたい。核に関する記述の部分だが、高山市としては、原発に頼らない自然エネルギーの推進という視点が必要で

はないか、と感じた。

市　　長　　今、平和都市宣言についてご意見をいただきましたが、他にも何かご意見ありますか。
私は、皆さんの意見をまとめていく姿勢を子どもたちに示していきたいと考えている。
子どもたちは今、政治に対しても世界の出来事に対しても非常に不信感を持っている気がする。大人はこういう議論を重ねながら、こういうことを決めてきているということを子どもにも大人にも知らせたいと思う。
教育大綱を策定するこの総合教育会議についても、大人がちょっと話をして大綱を決めたということでなく、今日は多くの職員にも来てもらっているが、こういう機会を重ねていくことで、認めてもらえるのでないかと思う。